

令和元年度第3回花巻市行政評価委員会（人づくり・地域づくり部会）会議録

1 開催日時

令和元年8月1日（木） 午前10時～午前11時40分

2 開催場所

花巻市役所新館 1階会議室

3 出席者

(1) 委員 4名

細川祥委員（部会長）、鎌倉公順委員、伊藤蓉子委員、佐藤洋子委員  
（欠席：高橋勉委員、上田直輝委員）

(2) 説明者（施策主管課） 1名

こども課：今井岳彦課長

(3) 事務局（施策及び事務事業評価担当課） 2名

秘書政策課：瀬川千香子企画調整係長、吉田真彦主査

4 議題

市が実施した施策評価のうち、花巻市行政評価委員会の評価対象施策である「就学前教育の充実」について評価を行った。

(1) 施策主管課による説明、質疑応答

(2) 委員会の評価結果集約

5 議事録

(1) 施策主管課による説明、質疑応答【主な意見・質疑等】

【保育士の確保や勤務状況について】

鎌倉公順委員：現在待機児童はいるのか。

今井岳彦こども課長：毎月受入れニーズを各園からもらっているが、保護者が預けたい園ニーズとミスマッチになっている状態。また、入園者の年齢によって、配置が必要な保育士の人数も異なる。0歳児や1歳児では、3人につき保育士1名、4歳児から5歳児では、30人につき保育士1名である。旧花巻市内、東和は待機児童が多い。

鎌倉公順委員：石鳥谷、大迫は空いているか。

今井岳彦こども課長：石鳥谷は空きがあっても保育士が不足している。大迫は空きがある。

細川祥委員：隠れ保育士（保育士の資格を有しているが、保育士の仕事をしていない者）の方も相当いる。

佐藤洋子委員：ハローワークで保育士の求人をかける際、保育士資格を有する人をお願いしているようだが、保育士としては就業しないという話も聞いている。

鎌倉公順委員：一番のネックは勤務条件。原則午前7時から午後6時、週6日では無理が

ある。非常勤職員も週5日、1日あたり6時間しかいない。職員も自分の子供が小さいと勤務体制が合わずに退職するため、若い人に頼っている状況である。

細川祥委員：働き方改革も進む中、例えば午前中だけ、午後だけのパート勤務など、勤務時間を細分化することが必要ではないか。

今井岳彦こども課長：日中（9時から4時）は人員が足りているが、朝晩が手薄になっている。朝夕のパートという区分で一度退職した保育士さんをお願いしている。長時間は無理でも、短時間勤務なら働けるといいう人に頼っている。

佐藤洋子委員：西公園保育園では、時間指定で働く保育士（保育サポーター）がいる。

伊藤蓉子委員：長時間勤務はなかなか務まらない。働いている人は朝早く預ける。

今井岳彦こども課長：働く人は週5日勤務なので、休む時は平日振替で休むことになる。保育園で預かる子供の数は、保育園の保育士定数にも関わってくる。

伊藤蓉子委員：保育士の勤務記録は、市でも民間でもタイムカードが導入されており、出退勤時間の履歴が残る。そうすると指導監査が入った時に、子供の数に対して、保育士の数が不足している時間があることがわかり、監査の対象になる。

今井岳彦こども課長：子どもがいなくても、園には最低2人保育士がいなければならない。

#### 【保育士の研修について】

佐藤洋子委員：平成28年度の外部講師からの助言によって、平成29年度は内部講師にしたということだが、外部講師は内部講師の方が良いと言っていたのか。

今井岳彦こども課長：当初は内部講師でやっていたが、保育士は朝7時から午後6時の勤務で精一杯であり、更に内部講師の研修をすると負担である。しかし、研修は必要であるため、外部講師をお願いしたもの。個人的には内部講師でやった方が、保育士の力がつくと考えている。

佐藤洋子委員：内部講師だと、園内のみんなの目があるので、やる方も頑張れる。

今井岳彦こども課長：負担を減らしながら、公立では内部講師による研修を充実させてきている。ただし、本来の保育業務を踏まえた、勤務の調整等は必要である。

佐藤洋子委員：よその講師を使うのも良いが、自分の園とは環境の違う話が出てくる可能性もある。

今井岳彦こども課長：必ずしも、外部講師である必要はない。参加者数は活動指標であって、事業の成果ではない。受講者が研修して良かったと感じる、これは役立てられるといった内容を評価する必要がある。参加したから成果であるとは言えないため、成果指標を見直したい。

伊藤蓉子委員：まずは参加してもらうことから始まると思う。

今井岳彦こども課長：その通りではあるが、事業の目的は資質の向上であり、参加者数の増加が資質の向上と同義ではない。外部講師だけ呼んで、参加者を増やすとなると、本来の目的からずれてくる。

佐藤洋子委員：現状と課題の中で、コミュニケーションを図る能力が低下しているなどがあるということだが、価値観や生活様式の変化というのはどういうことか？

今井岳彦こども課長：家族との関わり方や1人親の増加、メディアとの付き合い方もあるが、直接関わるというよりは、衣食住のような生活のところだと思う。関わり方がわからないというのものもあるかもしれないし、1時間でも30分でも中身の濃い関わり方もあるのかと思うが、本質は家庭生活が子どもの成長に影響する。

鎌倉公順委員：安全第一、ケガさせないという目的での関わり方もある。全然見てなくて子供に怪我をさせたというのは果たしてどうかと思う。

今井岳彦こども課長：研修を学んで意識を持つことで、資質は向上していく。外部講師に言われるより、お互い中でやった方が実用的だと思う。

#### 【新設の保育園及び幼稚園の状況について】

鎌倉公順委員：キクコーストアの横に保育園ができると聞いた。これは東芝メモリーの立地が関係しているのか。

今井岳彦こども課長：民間法人が、やりたいということで建てている。花南地区はこれから人口が増えていく見込みであるので、待機児童の対策にもなる。

伊藤蓉子委員：保育園だけではないのか。

今井岳彦こども課長：保育園と戸建て住宅と集合住宅ができる。

佐藤洋子委員：世帯数がこれから伸びていくし、小学校もクラスが増えたと聞いている。

今井岳彦こども課長：学童クラブが心配。学校近くに場所もない。学校の教室も足りなくなるかもしれない。

伊藤蓉子委員：学校の後ろに特別養護老人ホームができたので、増築できない。

今井岳彦こども課長：来年、みどりの保育園（わこの家）が、現在の場所とは別に、びっくりドンキーの近くに保育園を新設する。日居城野保育園が移転。移転先で新設する保育園では、定員60人から80人規模で増やし、小規模保育も行う。

鎌倉公順委員：認定こども園は進める方向か。

今井岳彦こども課長：難しい。幼稚園はすべて定員割れしている。単純に50人に入園してもらえば良いが、法人の意向もある。保育園をやっているところから転向するとハードルが低い。幼稚園は教育をやっている。保育とは異なるという信念がある。

鎌倉公順委員：運動能力やコミュニケーション能力も関係するか。

今井岳彦こども課長：現在は違いがない。3歳児以上に教える内容は国から示されている。親同士の付き合いもない場合がある。地域の人の子供に対する声掛けも少ない。

佐藤洋子委員：1年生の担任は手間がかかるので、ベテランの先生をおいている。親が1日先生を体験する取り組みあり。先生がどんなことをやってきたか、保護者が知ること、こどもとの関わり方が変わる。

#### 【ADHD の子どもについて】

鎌倉公順委員：ADHD の子どもに対する支援として具体的なものはあるか。

今井岳彦こども課長：就学時に、普通学級か支援学級か、特別支援学校かといった選択ができる。この選択は、保護者の意向が強い。

鎌倉公順委員：ADHD に対する認識が子どもに無いことで、変わった子という扱いをされてしまい、いじめの理由になっている実態がある。

今井岳彦こども課長：色々な人や価値観が許容されるべき。LGBT もその1つである。  
多様な人のあり方を受け入れられる環境づくりが必要である。

## (2) 委員会の評価結果集約【施策評価検証シートの整理】

- 「◎前年度評価の振り返り」において前年度の「Check=評価」⇒「Action=見直し」が機能しているか

前年度の振り返りをしているが、全体がこの内容に終始してしまっている。

- 「5 施策を構成する事務事業の検証」が的確に行われているか

鎌倉公順委員：外部講師から内部講師に代わり、研修回数が減少したということは、記載不要であると思う。

細川祥委員：施策への直結度が低い事務事業が半分ある状況の中で、再編や施設整備はやらなければならないこと、就学奨励補助は制度としてやらなければならないことだとしても、施策への貢献度において、直結している事務事業の工夫とか充実とかは、何かありそうな気もする。

細川祥委員：施策の目指す姿を実現するために、本当に新たな取り組みは不要なのか。この施策においては、外部講師の話だけではなく、事業を幅広く展開している。

鎌倉公順委員：現状と課題に対し、外部講師は違う観点ではないか。

細川祥委員：前は研修がポイントであったのかもしれないが、成果の向上に向けて施策を構成するすべての事業の実施結果を踏まえた検証がなされる必要がある。

- 「3 成果指標の達成状況」の「(達成状況に関する背景・要因)」の分析が的確に行われているか

細川祥委員：着実に成果を挙げているとしながら、課題として参加者数の減少を挙げている点に整合性がない。今日の質疑応答の中では、地力をつけるためには内部講師による研修を実施することが、保育士の資質向上に有効といった発言があったが、そうした内容は評価シートに書くべき。

鎌倉公順委員：アンケートの書き方次第で指標となる数字が上下する可能性はある。また、参加者数だけの現状にとどまっており、なぜこうなっているのかが抜けている。

佐藤洋子委員：研修する意味が示されていない。

- 「6 施策の総合的な評価」が的確に行われているか

細川祥委員：現状と課題について、体を動かす機会の話や地域の交流の話、コミュニケーション能力の話などがあるが、他人の立場を思いやれないという子供が増えているなど、表現が辛辣なところもある。

伊藤蓉子委員：片親であることも1つの要因になっていると思う。

細川祥委員：もし、1人親であることが絶対的なハンデとなるのであれば、そこを支援するなりサポートするなりする事業を工夫して見られないか、チャンネルを作れないかなど、ありそうな気はする。

そういう意味では、全体的に考えて、現状と課題を解消していく方向で、最終的に目指す姿になるようにするにはどのようにするか、という検討経過があるはずなので、こういった点も書いてほしい。最後の課題も外部講師による研修参加者が少ない、という点だけになっている。今日の質疑応答では、参加者数は活動指標であり、研修の実施によってそれがどう生かされているかという分を成果として考えたいという発言があったが、そうした内容も記載されていないのはどうか。

細川祥委員：「課題」はもう少し掘り下げて考え、今後の方向性に結びつけてほしい。

#### ● 「シート記載内容全般について」

細川祥委員：第1回の施策評価シートと似たところがあり、伝わりにくい表現がある。「前年度の評価の振り返り」に記載した外部講師を活用した研修の話に終始している。

施策の目指す姿が、小学校へのスムーズな接続ができていて、かつ示されている現状と課題からは、研修だけではない、幅広い内容である。

4で示されている全ての事務事業を含めて考え、施策の目指す姿を達成する上で、成果の向上を図るための事業、新たな事業、取り組むべき事業はないのか、という問いに対し、「なし」というのは寂しい気もする。

伊藤蓉子委員：なしということは、現状でよいと言っているということになる。

鎌倉公順委員：どのようなカリキュラムが良いか。

細川祥委員：その時その時の現場の課題や悩みの解決にヒントを与えてくれるテーマ設定が大事と考える。世代が変われば親も変わる。親に問題があるという研修はしにくいと思うが、そうした要素も混ぜた研修テーマが良い。

伊藤蓉子委員：親が原因の場合もあるだろうが、そうした場合に親は研修を受けず、保育士が研修を受けてどう生かすのか。相手の立場を思いやれない子ども先生が学んで、周りの子供にどうフォローさせるかを考えることも必要。

細川祥委員：社会環境が変わっていることもあり、今まで家庭で身につけていた習慣や感覚であっても、保育園や学校で意識的に教えないといけないのかもしれない。

伊藤蓉子委員：保育園であれば下の子の面倒を見るので良いなと思っていた

鎌倉公順委員：花巻小学校では兄弟学級をやっている。これは上級生が下級生の面倒を見る取り組み。6年生と1年生、5年生と2年生などとマッチングして、1年間、兄弟学級として、昼休みに1年の教室に言って一緒に遊んであげるなどしている。

細川祥委員：その話は次回の委員会の内容に関わると思っている。

鎌倉公順委員：年少の子、年長の子と一緒に活動するという取り組みは保育園ではあるか。

伊藤蓉子委員：保育園ではある。1週間に年少と年長の交流が何度かある。常に一緒に生活しているということもある。意図的にやらないと上の子が下の子の面倒を見るという習慣も生まれにくい。

鎌倉公順委員：現状と課題に書かれている内容に対する取り組みと結果を加味すべき。

いろいろな取り組みがあるが、外部講師に引っ張られている。

佐藤洋子委員：現状と課題があつて、このような取り組みをした実践をした、その結果が成果、という書き方だとよい。

細川祥委員：項目5、6にはそうした内容の記載が必要。

鎌倉公順委員：どこにも具体性がない。

佐藤洋子委員：1日体験も取り入れるようにするといっていたが、それは良い取り組みだ  
と思う

細川祥委員：小学校でも担任の先生だけではなく、フォローの先生もいる。

鎌倉公順委員：実際には担任・フォローの先生はどちらか1人しかつけない。各クラス  
に補助の先生が1人ずつ付いて良いと思う。

細川祥委員：昔と同じではない、というのは成果指標に表れている。成果指標の評価は成  
果が出ているとなっているが、成果指標は上下を繰り返している。

鎌倉公順委員：担任の先生がアンケートをどう書くのかによっても、成果指標を達成した  
かどうかの判断は変わってくる。先生がよく書けば、よしということになる。

佐藤洋子委員：子供の行動分析ができないというが、子供たちの年代によって、傾向も変  
わるので、教育の方向性を変えることも現場ではしているようだ。

伊藤蓉子委員：南城でも収拾のつかなくなったクラスがあると聞いた。担任がまとめら  
れなかったようだ。親のつながりがなくなるからそうなる、と長く先生をやっていた  
人が言っていた。

細川祥委員：今は保育園・幼稚園に預ける子が多いので、絶対数は少ないと思うが、在家  
庭から学校に来ると、何もわからない状態で集団生活がスタートすることになる。

若い人は共働きでないとやっていけないので、子供は減っているが、預ける率は上が  
っており、預けるところが足りなくなるという状態が起こっている。

事務連絡（瀬川千香子企画調整係長）

人づくり・地域づくり部会の部会長を務めていた岩手県立大学の堀籠教授が多忙のため、  
今年度の行政評価委員を引き受けられないという申し出があつたことから、同大学の市島  
准教授を新しく委員に迎えたいと考えている。途中参加になるが、8月9日の第3回部会  
に参加する予定であるので、よろしく願いたい。